



【コラム】二酸化炭素排出量削減×森林保全による地域活性化の取り組み 温浴施設の燃料を、灯油から木質バイオマス（薪）へ転換



■松田町健康福祉センター内の健楽の湯は、灯油により給湯していましたが、令和3（2021）年に、木質バイオマスボイラーを導入しました（以降、灯油と薪を併用）。

■薪（町内）の供給は、町内団体がNPO法人となり、地元企業等の協力も得ながら行っています。

取り組みによる効果

- 森林の保全（寄地区の間伐材等の有効活用）
- 産業の創出
- エネルギー費用の流出削減
- 二酸化炭素排出量の削減



-	薪ボイラ ー導入前	薪ボイラー導入後
灯油使用量 (L/年)	22,000	13,600 (導入前比 38.2%削減)
灯油使用によ る CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /年)	54.78	33.86 (導入前比 21 t 削減)
燃料費	H31 実績 171 万円	R5 実績 184 万円 (薪 36 万円+灯油 148 万円)

※灯油使用量と燃料費は施設提供の実績値より。CO₂ 排出量は林野庁報告用事業計算ファイルを用いて算出。

◆灯油の使用量が減ったことにより、導入前と比較して1年間で約21tのCO₂を削減。

◆もしも薪ボイラーを設置せずに現在も灯油のみだった場合、R5年度の灯油単価を1Lあたり109円とすると燃料費は109円/L × 22,000 L/年=239万8千円。

239万8千円-184万円=55万8千円となり、薪ボイラー設置により燃料費の削減効果は、55万8千円と考えられます。